

浅間山火山ハザードマップの改訂について

国土交通省 関東地方整備局 利根川水系砂防事務所 ○儘田 勉、後藤宏二、高浦敏功、牧野邦彦
(財)砂防・地すべり技術センター 安養寺信夫、栢木敏仁、塩野康浩、池田一

1. はじめに

浅間山のハザードマップは、平成7年に防災啓発活動の一環として「浅間山火山防災マップ」(初版)が公表された。その後、平成15年11月には改訂版となる「2003年版浅間山火山防災マップ」が作成されている。

その約10ヶ月後の平成16年9月には、浅間山で21年ぶりに中規模噴火が発生した。この噴火対応やその後の社会状況の変化から再度、改訂の必要性が生じ平成19年からその検討を進めている。

2. ハザードマップの改訂

2.1 ハザードマップ改訂の必要性

2003年版浅間山ハザードマップ改訂の必要性として以下の点が挙げられる。

- ① 気象庁による浅間山の噴火シナリオ検討結果が示された。
- ② 噴火警戒レベルが導入された。
- ③ 新たなシミュレーション結果等のデータが蓄積された。
- ④ 避難に関する充実した情報が望まれている。
- ⑤ 防災意識の風化を防止するための防災啓発活動が必要。

2.2 ハザードマップと火山防災マップの改訂

ハザードマップの改訂に当たり、学識者と関係行政代表者等から構成される浅間山ハザードマップ検討委員会を立ち上げ、学術的な観点から検討を進めている。

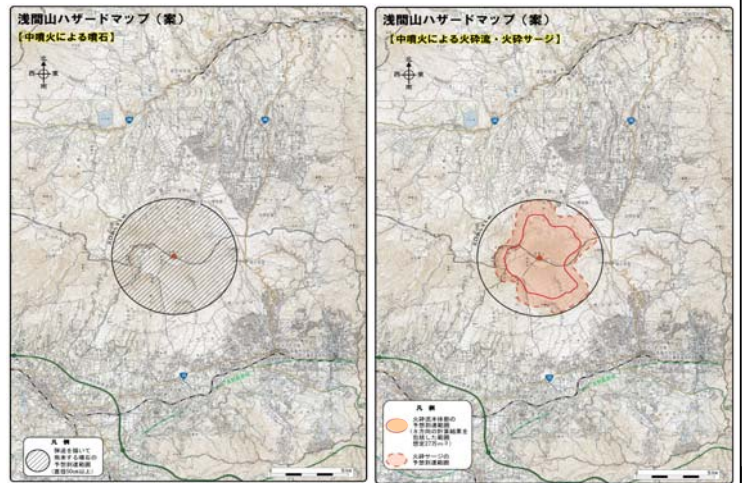
また、行政の防災担当者等から構成される浅間山火山防災マップ策定ワーキンググループにおいて、防災マップの検討を進めており、連絡調整を行いつつ、それぞれ役割を分担し進めている事が特色となっている。

2.3 改訂版の基本コンセプト

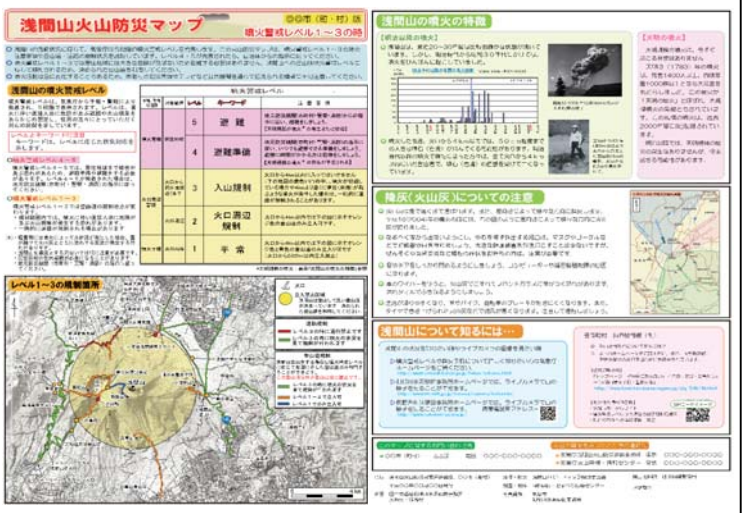
改訂にあたっての基本コンセプトは、以下の通りである。

- ① 噴火シナリオ、噴火警戒レベル、新たなシミュレーション結果を踏まえたハザードマップとする。
- ② 多様な対象者に向けて作成する防災マップの基礎資料となるハザードマップ(主題図)とする。

検討中の「ハザードマップ」



検討中の「火山防災マップ」



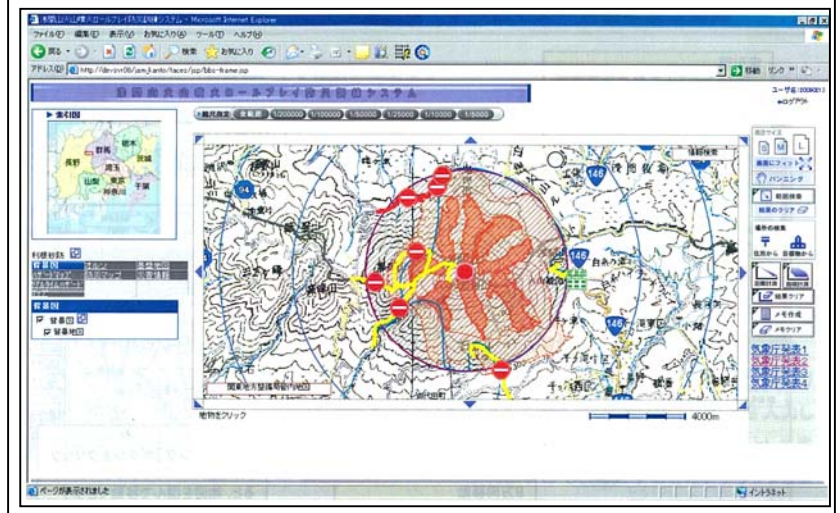
- ③ G I Sにより整理し、様々な形で活用出来るハザードマップとする。

3. ハザードマップの公開方法

ハザードマップの公開については、従来は紙ベースにすべての現象を合わせて表示して作成したが、様々な活用を想定し、紙ベース、立体マップ、G I Sベース（web-G I S）での検討を行った。

- ① 紙ベース（PDF版）…簡単な解説とレベルごと現象ごとのハザードマップ
- ② 立体マップ…視覚的にイメージしやすいハザードマップ
- ③ G I Sベース（web-G I S）…
火山の状況に応じて、必要なハザードマップを取り出せることが可能となるが、地形が変わらないことが前提となる（プレアナリシスハザードマップ）。
- ④ 解説書…ハザードエリアの設定方法の解説や火山防災一般、浅間山の特徴などを記述。防災担当者向け、防災教育向けを検討

G I Sベースの表示イメージ



4. まとめ

2003年版の反省を踏まえて、様々な形での検討、公開方法等の検討を行ってきた。

特に、一般の人にもビジュアル的で解りやすいWeb-G I Sの導入に向けて、段階的な整備を進めている。整備手順は、PDF版のホームページへの掲載 → 事務所でのG I Sシステム整備 → 防災機関での情報共有 → 一般への配信を最終目標と考えている。

また、現在整備しているG I Sベースのハザードマップは、地形が変わらないことを前提としたプレアナリシスハザードマップ（事前に想定される現象について多数のシミュレーション解析を行い、状況に応じ最適事象のマップを選択する）のシステムであるが、更に、地形の変化にも対応可能なリアルタイムアナリシスハザードマップ（変化する事象に応じリアルタイムに解析し、予測結果を提供する）システムの整備も平行して進めているところである。

2003年版ハザードマップ公開時には、住民向け説明会を開催したが、今回の改訂版では、防災教育での活用、特に子供の頃からの防災教育での活用を意識したハザードマップ及び解説書の検討を進めており、一般住民だけでなく、教育機関でも有効活用できる資料としたいと考えている

G I Sベースの3D表示イメージ

